

戦国絵巻ここに蘇る

小栗判官まつり

4年ぶりの開催で一層にぎわった小栗判官まつり。メイン会場の新治小学校では、ダンスや吹奏楽の披露、小栗内外大神宮太々神楽などが行われました。最後は時代衣装に身を包んだ参加者が一堂に会した迫力ある凱旋式に。照手姫役のゆり葉さんは「小学生のころ参加したお祭りに、大人になってから、照手姫役として参加できてとてもよかったです」とふるさとでの忘れられない一日を振り返りました。大盛況で幕を閉じた小栗判官まつり。来年の開催が楽しみです。



①沿道の人へ微笑む照手姫／②子ども武者／③④自前の甲冑に身を包む参加者／⑤小栗内外大神宮太々神楽／⑥照手姫の侍女など

戦国ワークショップ・チャンバラ合戦

今年は例年のない新しい試みで、手裏剣や流鏑馬射の体験などができる戦国ワークショップや、チャンバラ合戦をサブ会場（協和支所）で実施。参加者はひるまず相手に立ち向かい、白熱した合戦が繰り広げられました。



小栗判官伝説

小栗地域一帯を治めていた小栗助重は戦に敗れ、相模国の横山家の館に身を寄せます。そこで酒に毒を盛られ、家来ともども毒殺されてしまいます。

閻魔大王の計らいで、助重は餓鬼阿弥の姿となって現世に戻ります。餓鬼阿弥（助重）を乗せた箱車には「この者を熊野本宮、湯の峯の湯に入れて本復させよ」と書かれた札が下げられていました。横山の娘照手姫は変わり果てた助重とは知らず箱車を引き、熊野の湯の峯にたどり着きます。

助重は湯につかって元のからだに回復し、その後、困難を乗り越えて領地を取り戻した助重は、照手姫とともに末永く幸せに暮らしたということです。